

第27番 神峯寺

●高知県安芸芸安田町唐浜2594
☎0887-38-5495
●宿坊／なし

第28番 大日寺

●高知県香南市野市町母代寺476
☎0887-56-0638
●宿坊／なし



沿線の見どころ



絵金蔵

幕末土佐の絵師・金蔵（通称：絵金）の芝居絵屏風を収蔵、展示する美術館。芝居絵屏風が飾られる祭礼の様子を再現した闇の展示室や、壁の穴から実物の屏風絵をのぞき見できるコーナーなど、展示方法もユニークだ。毎年7月には、赤岡町本町・横町商店街で絵金祭りが開催され、通りに屏風絵が展示される。

☎ 高知県香南市赤岡町538
☎ 0887-57-7117
🕒 9:00～17:00（入館は16:30まで）
🌞 月曜（祝日の場合は翌日）、12/29～1/3
👤 大人500円



沿線の見どころ



県立公園や・シイパーク

道の駅と鉄道駅・バス停を併設。道の駅には産直市やレストラン、土産物店など7店舗があり、観光情報センターでは宿泊やイベント情報などが入手できる。太平洋に面した公園は夏季は海水浴場となり、シャワー、ロッカー、更衣室などを完備。デイキャンプやバーベキューサイト（要予約）は一年を通じて利用できる。

☎ 高知県香南市夜須町千切537-90
☎ 0887-57-7122（道の駅やす）
🕒 9:00～18:00（夏季は8:00～19:00）
🌞 無休



境内の見どころ



石段沿いの景観

境内の景観の美しさでは、四国霊場でも有数といわれる神峯寺。本堂まで続く石段の両脇は、丁寧に刈り揃えられた低木で構成された庭園となっている。早春にはウグイスの風流なさえずりが響き渡り、初夏になるとツツジやジャクナゲが咲くなど、四季折々の風情が訪れる人を楽しませてくれる。



自然に引き込み優雅な佇まいを見せる本堂

第27番

神峯寺

ちくりんさん じぞういん こうのみねじ

遍路ころがしの急坂は土佐の難所

歴史・全体像

始まりは神功皇后が戦勝を祈願することを目的に、天照大神などの諸神を祀ったことから。その後行基が十一面観音像を刻んで本尊とし、神仏を合祀。大同4年（809）に弘法大師が天皇の勅命により来錫、諸堂を整え霊場とした。明治時代には神仏分離令で廃寺となり、本尊は金剛頂寺に移されるが、明治17年（1884）には再興された。またこの寺は、三菱財閥創始者の岩崎弥太郎の母親が、息子の開運を祈願して熱心に参拝したことでも知られている。母親は安芸市にある自宅から寺までの道のり約20kmを歩き、さらに遍路ころがしと呼ばれる急坂を上ることを21日間も続けたといわれている。

境内

「真っ縦」と呼ばれる急勾配の山道が続く神峯山山頂付近にある神峯寺。山道を上りきり、仁王門までたどり着いたとしても、さらに約160段の石段を上らなければ本堂と大師堂まで至らない。

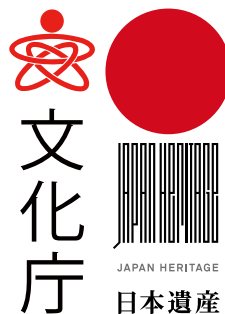
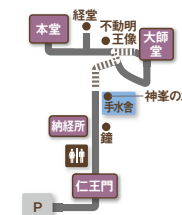
石段の両脇には美しい庭園が整備されており、厳しい巡礼にひとときの安らぎを与えてくれる。杉の大木などの鬱蒼とした森を背にした堂宇は、簡素ながらも堂々とした佇まいだ。

本堂前には、今にも歩き出しそうな弘法大師像や、炎の赤が目をひく不動明王像が建つ。境内からは土佐湾を一望できる。

御詠歌／みほとけのめぐみの心こう
のみね山も誓ひも高き水音
本尊／十一面観世音菩薩
真言／おん まか きやろにきや そわか
宗派／真言宗豊山派
開基／行基菩薩



仁王門を抜けてすぐは広々としている



日本遺産「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業／発行：四国遍路日本遺産協議会／制作：(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



